

01	名古屋	荒子小学校	ノザワ タカヒロ 名前 野澤 貴弘
分科会番号	3	分科会名	社会科教育（小学校）

研究題目 対話を通して学習方法を改善し、自ら学びを進める児童の育成
 — ポートフォリオと学習方法改善会の実践を通して —

研究要項

1 研究のねらい

名古屋市教育委員会が示す「ナゴヤ学びのコンパス」では、目指したい児童の姿として「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」ことが掲げられている。そこでは、児童が学ぶペースや方法、内容などを自己選択・自己決定しながら学ぶことや、学びに見通しをもち、振り返りながら学び続けることが大切にされている。また、教師は児童を「有能な学び手」として理解し、児童の学びに伴走することが求められている。

私の考える「対話を通して学習方法を改善し、自ら学びを進める児童」とは、自分の学習を振り返りながら成果や課題を見だし、友達との対話を通して学習方法を改善しながら、学習問題の解決に向けて主体的に学び続ける児童である。

本学級の児童は、社会科の学習において、学習問題を解決しようと意欲的に調べる姿が見られた。しかし、学習問題の答えをまとめる場面では、重要な語句が抜けていたり調べたことを十分に関連付けて記述できなかったりする姿が見られた。また、振り返りの場面では、自分の学習の成果や課題に気づき始めているものの、次の学びに向けた具体的な改善案まで見いだせていない児童も多かった。

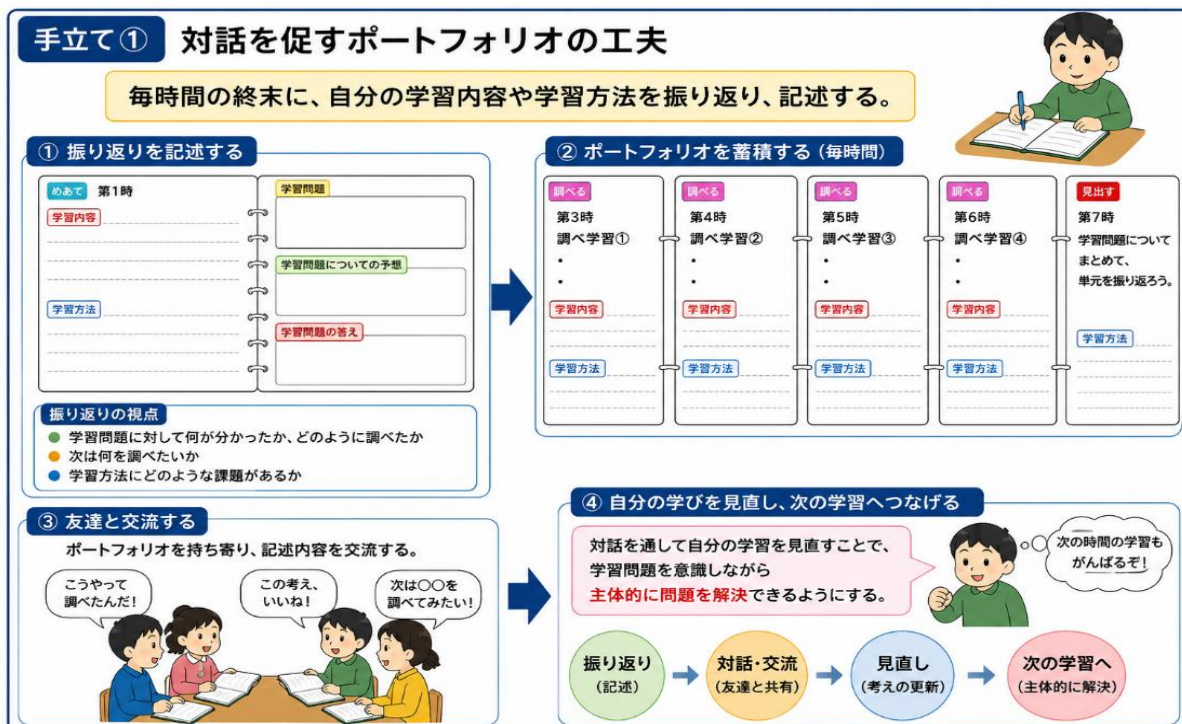
そこで、本実践では、毎時間の学習を振り返るポートフォリオを活用し、児童同士で記述内容を交流する場を設定する。また、単元終了後に「学習方法改善会」を行い、学級全体で学習方法について話し合い、次単元で取り組む改善案を決定する。このように、児童が自分たちの学びを振り返り、対話を通して学習方法を改善していく経験を積み重ねることで、自ら学びを進める児童の育成を目指していく。

2 研究を進めるにあたって

(1) 対話を促すポートフォリオの工夫

社会科の学習では、自分の考えを広げたり深めたりするために、学習を振り返る活動が重要であると考えた。そこで、毎時間の学習の終末に、自分の学習内容や学習方法について振り返りを記述する「ポートフォリオ」を活用する。

振り返りでは、「学習問題に対して何が分かったか」「次は何を調べたいのか」「学習方法にどのような課題があるのか」などを記述させる。さらに、児童同士でポートフォリオを持ち寄り、互いの記述内容を交流する場を設定する。このように、対話を通して自分の学習を見直すことで、学習問題を意識しながら主体的に問題を解決することができるようにしたいと考えた（次項資料①）。



【資料① ポートフォリオの説明と期待する姿】

(2) 学習方法改善会の工夫

児童が自ら学びをつくっていくためには、学習内容だけではなく、学習方法についても振り返り、改善していく必要があると考えた。そこで、単元終了後に「学習方法改善会」を設定する。学習方法改善会では、まず小グループで、「学習の中で良かったこと」「困ったこと」「次単元で改善したいこと」について話し合う。その後、学級全体で改善案を共有し、次単元で取り組む学習方法を決定する。例えば、「年表を作成する」「キーワードを意識して調べる」「友達と対話しながらまとめる」などの改善案が考えられる。

このように、学級全体で学習方法を改善していくことで、児童が自分たちで学びをつくっていくとする意識を高め、自ら学びを進めることができるようになると考えた（資料②）。



【資料② ポートフォリオの説明と期待する姿】

3 実践の概要

- (1) 実践単元 「武士の世の中へ」
- (2) 実践の対象 6年生 32名
- (3) 実践のねらい

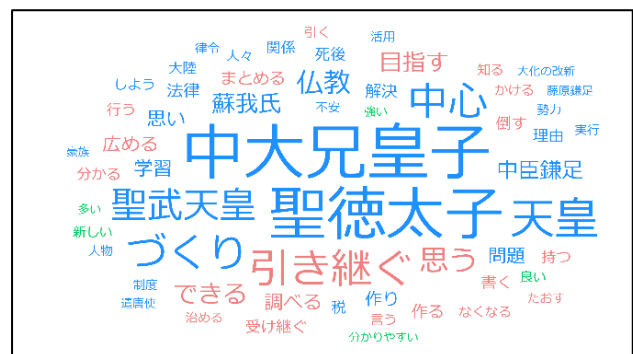
武士の登場によって、貴族中心の世の中から武士中心の世の中へ変化していったことについて理解する。また、学習問題を解決するために必要なことを見通しながら調べ学習を進め、対話を通して学習方法を改善しながら主体的に学習に取り組むことができるようにする。

(4) 実践の概要

段階	主な学習活動
前単元からのつながり 	○ 前単元「天皇中心の国づくり」で、学習問題の答えをテキストマイニングする。 ○ 「聖武天皇」「遣唐使」などの重要語句が小さいことから、学習問題の答えを十分に記述できていないことに気付く。 ○ 学習方法改善会を行い、「年表を作成する」「キーワードを意識して調べる」という改善案を決定する。
つかむ 	○ 単元「武士の世の中へ」の学習問題をつくる。 学習問題「武士の登場によって、貴族の世の中はどのように変わっていったのか調べよう。」 ○ 前単元の改善案を生かし、教科書からキーワードを探す。 ○ 3、4人のグループで話し合い、学習計画表を作成する。
調べる 	○ 学習計画表を基に、教科書や資料を使って調べる。 ○ 調べたことをワークシートにまとめる。 ○ 年表を作成し、出来事の順序やつながりを整理する。 ○ 毎時間、ポートフォリオに「学習内容」と「学習方法」を振り返る。 手立て① 対話を促すポートフォリオ
調べる・深める 	○ 他グループと対話し、自分たちの調べた内容や年表を見直す。 ○ 「平清盛」「源頼朝」「鎌倉幕府」「御恩と奉公」「元寇」などのキーワードを意識しながら、学習問題とのつながりを考える。
まとめる 	○ グループで年表を用いながら、調べ学習を振り返る。 ○ 学習問題に対する自分の答えを書く。 ○ テキストマイニングを行い、前単元と比較する。 ○ 「平氏」「源氏」「征夷大將軍」などの重要語句が大きくなったことから、改善案の成果に気付く。
生かす 	○ 学習方法改善会を行う。 ○ ポートフォリオを持ち寄り、学習方法の成果と課題を話し合う。 ○ 「年表は分かりやすいが、作成に時間がかかる」など、改善案を見直す。 ○ 次の単元に向けて、さらに学習方法を改善する。 手立て② 学習方法改善会

(4) 前単元から本単元へのつながり

第1次実践では、単元「天皇中心の国づくり」において、学習問題「聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりは、だれが、どのように受けついでいったのか調べよう」を設定し、学習を進めた。単元の終末には、これまでの学習を基に、児童が学習問題の答えを記述した。その後、児童の記述をテキストマイニングして提示した（資料③）。児童は、教科書や資料集にある重要語句や、単元末のまとめと資料③を照らし合わせ、「聖武天皇」や「遣唐使」などの言葉が小さくなっていることに気付



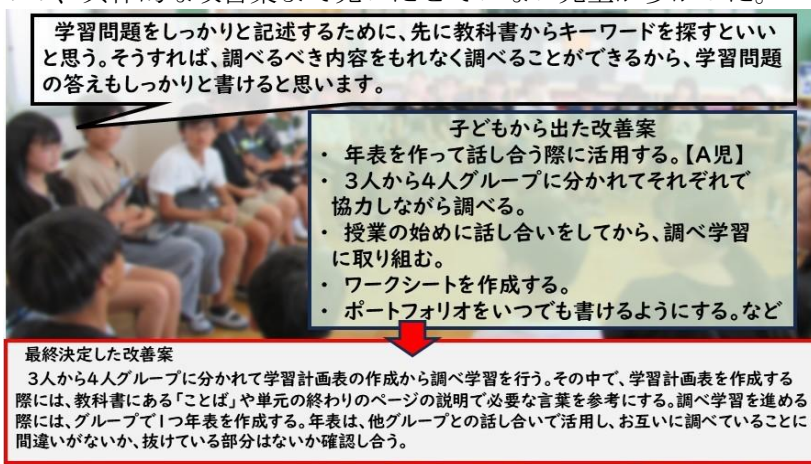
赤:動詞 青:名詞 緑:形容詞
 大きさは全体での記述回数が多い順

【資料③ 学習問題をまとめたテキストマイニング】

き、学習の要点を十分に押さえられていなかったことを自覚した。

そこで、次時に「学習方法改善会」を行い、ポートフォリオの記述を基に、自分たちの学習の成果と課題を振り返ることにした。ポートフォリオを分析すると、学習内容が評価Aの児童は34人中10人、学習方法が評価Aの児童は34人中8人に留まった。評価B・Cの児童では、聖武天皇とその功績についての説明が不十分であったり、「大化の改新」などの重要な語句が抜けていたりする記述が見られた。また、学習方法についても、学習問題解決に向けた学習の進め方についての成果や課題には気づき始めているものの、具体的な改善案まで見いだせていない児童が多かった。

学習方法改善会では、まず児童がポートフォリオを持ち寄り、自分の学習の進め方で良かったことや課題を少人数のグループで共有した。その後、次単元に向けての願いを語り合った。学級全体で共有すると、多くのグループから「学習問題の答えをしっかりと記述できるようになりたい」という願いが出された。そこで、その願いを実現するための改善案を出し合い、次単元から「年表を作成すること」や「見通しをもつためのキーワード探し」に取り組むことを決定した（資料④）。



学習問題をしっかりと記述するために、先に教科書からキーワードを探すというと思う。そうすれば、調べるべき内容をめれなく調べることができるから、学習問題の答えもしっかりと書けると思います。

子どもから出た改善案

- ・ 年表を作って話し合う際に活用する。【A児】
- ・ 3人から4人グループに分かれてそれぞれで協力しながら調べる。
- ・ 授業の始めに話し合いをしてから、調べ学習に取り組む。
- ・ ワークシートを作成する。
- ・ ポートフォリオをいつでも書けるようにする。など

最終決定した改善案

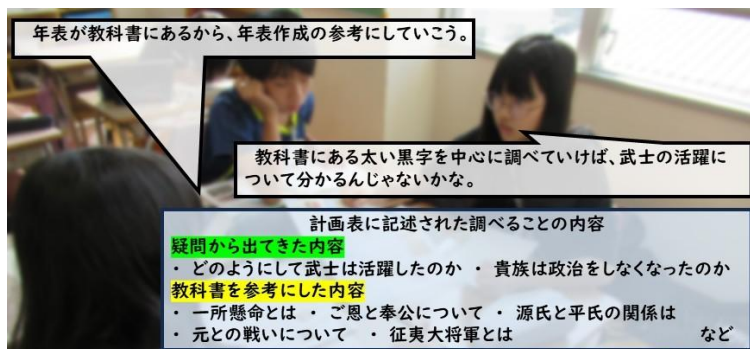
3人から4人グループに分かれて学習計画表の作成から調べ学習を行う。その中で、学習計画表を作成する際には、教科書にある「ことば」や単元の終わりのページの説明で必要な言葉を参考にする。調べ学習を進める際には、グループで1つ年表を作成する。年表は、他グループとの話し合いで活用し、お互いに調べていることに間違いがないか、抜けている部分はないか確認し合う。

【資料④ 学習方法改善会で全体で対話する様子と決定した改善案】

4 実践の様子

【つかむ段階】

第1時、第2時では、学習問題「武士の登場によって、貴族の世の中はどのように変わっていったのか調べよう」を設定した後、3～4人のグループで学習計画を立てる活動を行った。児童は教科書を基に、単元で重要になる言葉や調べる内容を考えながら話し合っていた。すると、「源頼朝は中心で活躍しそうだ」「武士と貴族の違いも調べたい」など、学習問題の解決に向けた見通しをもつ姿が見られた（資料⑤）。



年表が教科書にあるから、年表作成の参考にしていこう。

教科書にある太い黒字を中心に調べていけば、武士の活躍について分かるんじゃないかな。

計画表に記述された調べることの内容

疑問から出てきた内容

- ・ どのようにして武士は活躍したのか
- ・ 貴族は政治をしなくなったのか

教科書を参考にした内容

- ・ 一所懸命とは ・ ご恩と奉公について ・ 源氏と平氏の関係は
- ・ 元との戦いについて ・ 征夷大將軍とは

など

【資料⑤ 教科書を参考にしながら計画表を作成している様子】

【調べる段階】

第3時～5時では、前単元の学習方法改善会で決定した改善案を生かし、学習計画表や年表を活用して調べ学習を進めた。児童は、学習計画表に記入したキーワードや調べる順番を基に、教科書や資料を使って調べた。調べたことは、ワークシートに整理するとともに、年表にも書き込ませた。年表を用いることで、「平清盛が政治を行うようになった」や「源平合戦で源氏が勝利した」「源頼朝が鎌倉に幕府を開いた」など、出来事の時系列やつながりを意識しながら調べることができるようになった。

第4時の他グループとの対話活動では、児童は、自分たちのグループで調べた内容を友達に伝えたり、説明を聞いたりして自分の年表やワークシートを見直した。その中で、「それはどういうことだろ

う」「平清盛と源頼朝はどのようにつながっているのかな」「その出来事は前に起きたことと関係しているよ」など、出来事同士の関係に目を向ける発言が見られた。対話を通して、自分たちだけでは気付かなかった視点を得ながら、学習問題の解決に向けて調べる内容を整理していく姿が見られた。

第5時でも、児童は学習問題を意識しながら調べ学習を進めた。ある児童は、年表を見ながら「平氏の後に、源氏が出てくるから、貴族の世の中から武士の世の中へ変化したことが分かる」と発言した。また、別の児童は「御恩と奉公の関係があるから、武士が幕府を支えていたんだと思う」と発言した。これらの姿から、児童が単なる用語の確認にとどまらず、出来事の意味やつながりを考えながら調べていることが分かった。

授業の終末には、毎時間ポートフォリオを用いて学習を振り返る時間を設定した。児童は、「教科書を使うと調べることを決めやすかった」

「年表に書くと、出来事の順番が分かりやすい」「友達と話したら、自分では気付かなかったことが分かった」など、自分の学習方法について振り返っていた。これは、前単元で決定した「キーワードを意識して調べる」「年表を作成する」という改善案を、児童が自分たちの学習方法として意識しながら活用していることが感じられた。(資料⑥)。

年表でまとめると平氏が先に政治の実権を握ってその後に、源氏が平氏を滅ぼす流れになっていたよ。



対話したことを動画で確かめる様子

第4時のポートフォリオの記述内容

- ・調べるのが教科書を参考しているから話しやすかった。
- ・最初に話合いをしたことで、動画を見ると分かりやすいということが教えてもらい、スムーズに活動に取り組むことができた。
- ・年表を調べ学習と同時にまとめていくのは大変だけれど、話合いをする際には、お互いに見合うことができるから調べるのが分かりやすい。

対話活動を経た子どもの様子

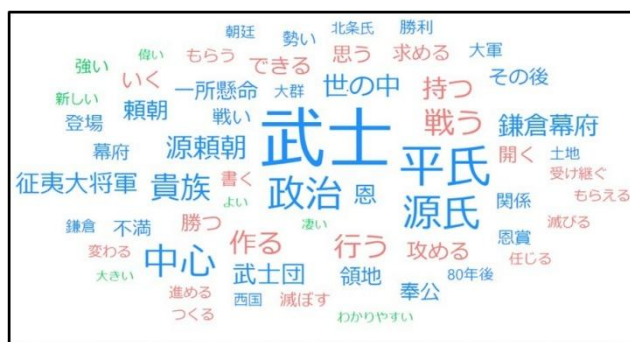
- ・対話したことを確かめる人数が増えた。
- ・他のグループに質問する人数が増えた。
- ・年表を見せてもらって調べることを整理していた。

【資料⑥ 対話活動と学習方法を随時改善している様子とポートフォリオの記述内容】

【まとめる・生かす段階】

第6時では、学習問題に対する自分の考えを記述する際に、児童には、これまで作成してきた年表やワークシートを見直ししながら、学習問題に関係する出来事や人物をつなげて考えるように促した。児童は、「平清盛」「源頼朝」「鎌倉幕府」「御恩と奉公」「元寇」などの語句を手掛かりにしながら、貴族中心の世の中から武士中心の世の中へと変化していった流れを記述していた。

その後、児童の記述をテキストマイニングして提示した(資料⑦)。前単元では、「聖武天皇」や「遣唐使」などの重要語句が小さく表示され、学習問題の答えに必要な内容を十分に記述できていないことが課題として見られた。そこで、前単元後の学習方法改善会では、「年表を作成すること」や「見通しをもつためのキーワード探し」に取り組むことを決定していた。



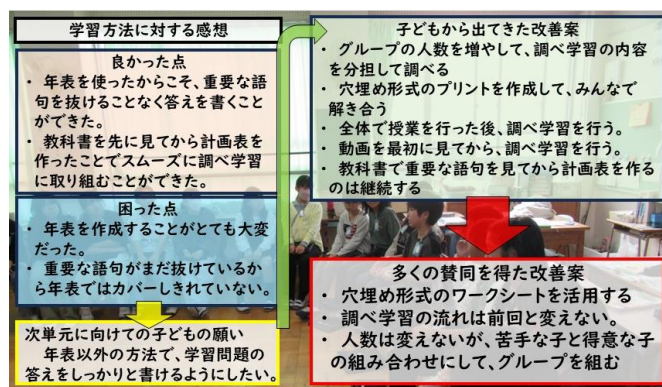
【資料⑦ 子どもの学習問題の答えをまとめたテキストマイニング】

本単元のテキストマイニングを提示すると、児童は前単元と比較して、「源氏」「平氏」「征夷大將軍」などの重要語句が大きくなっていることに気付いた。これは、年表を活用して出来事の順序やつながりを考えながら、学習問題の根拠となる語句を選択、記述できた結果である。「前より詳しく書けた」「大事な言葉を入れることができた」「年表を見たから、順番が分かりやすかった」などの発言があり、自分たちで決めた改善案が学習問題の答えを記述することにつながったと実感する姿が見られた。

第7時では、単元の学習を振り返り「学習方法改善会」を行った。児童はポートフォリオを持ち寄り、グループで「良かったこと」「困ったこと」「次単元で改善したいこと」について話し合った。児童は、

「年表は出来事の順番が分かりやすくなった」「教科書からキーワードを探すことで、調べやすくなった」など、前単元で決定した改善案のよさを実感する意見が出された。一方で、「年表を作るのに時間がかかった」「どこまで詳しく書けばよいか迷った」など、実際に取り組んだからこそ見えてきた課題も出された。

その後、学級全体で各グループの意見を共有した。すると、「教科書でキーワードを探すことは次回も続けたい」「年表は分かりやすいけれど、もっと短い時間で作れるようにしたい」「友達と話してからまとめると、自分の考えが書きやすくなる」など、次単元に向けた改善案が出された。話合いの中で、ある児童が「みんなで話し合って決めないと意味がない」と発言すると、多くの児童がうなずきながら聞いていた。その後、話合いを通して次単元へ改善案を決定していった（資料⑧）。



【資料⑧】 学習方法改善会の様子と改善案までの流れ

5 成果と課題（成果○、課題●）

手立て① 対話を促すポートフォリオ

- 学習内容や方法について継続的に振り返りを行ったことで、「キーワードを意識して調べることができた」「友達から聞いたことが調べ足りなかった」などと、自分の成果や課題に気付く児童が増えた。また、友達と振り返りを共有することで、新しい考えを取り入れながら学習を進める姿が見られた。
- 対話活動を取り入れたことで、「友達と話したら分かった」「他の人の考えも取り入れたい」など、自分の学習を見直す機会となり、自ら学びを広げようとする姿が見られた。
- 自分の考えを伝えることに重点を置き、他者の考えを十分に取り入れることができない児童が見られた。今後は、友達の考えのよさを具体的に価値付けしながら交流できる工夫が必要である。

手立て② 学習方法改善会

- 学級全体で学習方法について話し合うことで、自分だけではなく、学級全体の学びをよくしていこうとする意識が高まった。また、児童自身が改善案を考え、次単元で実際に取り組んだことで、「自分たちで学習をつくっている」という意識を高めることができた。
- 学習方法の改善案が出ても、全ての児童が同じように実践できなかった。改善案を学級全体で共有するだけではなく、個に応じた支援を行う必要がある。今後は、個々のポートフォリオに応じた適切なフィードバックや助言、改善案を選択して取り組むことができるような指導支援を工夫していきたい。

6 研究のまとめ

本研究では、「対話を通して学習方法を改善し、自ら学びを進める児童の育成」を目指して実践を行った。実践を通して、児童は学習内容だけではなく、自分たちの学習方法にも目を向けるようになった。また、友達との対話を通して自分の考えを見直したり、新しい考えを取り入れたりしながら学習を進める姿が見られた。特に、学習方法改善会では、自分自身のためだけではなく、「学級全体の学びを良くしたい」という思いをもつ姿が見られたことは大きな成果であった。児童は、自ら課題を見付け、改善案を考え、実践することで主体的に学びを進めることができるようになってきたと考える。

今後も、教師が全てを与えるのではなく、児童の思いや考えを大切にしながら伴走者として支援し、児童自身が学びをつくり上げていく社会科学習を追究していきたい。